

福島浜通りと首都圏の中高生による参加型対話の課題と成果

(4) 甲状腺検査を巡る中高生による「白熱教室2017」-いわき対話の課題と成果-

Agendas and Issues of Participatory Dialogues by Junior-High and High School Students from Fukushima-doori and Capital Area

(4) "Exciting Class 2017" by Junior- and High Students on Thyroid Screening Test - Issues and Results of IWAKI Dialogues -

*澤田 哲生¹, 中山 知恵子², 木村 菜摘³, 桑折 淳⁴

¹東工大, ²神大附属中高, ³東北大, ⁴磐城高校

2016年12月に東京で実施した白熱教室2016の結果を受けて、2017年4月末にいわき市内において、いわき市と首都圏の高校生約20名が1泊2日の日程で対話を繰り返し広げた。その結果、1) 専門家に聞きたいこと(12項目)、2) 皆で話し合ってみいたいこと(4項目)、意見(4項目)がまとめられた。

キーワード: 白熱教室, 甲状腺検査, 中高生, 参加型対話, Socio-scientific Issues (SSI), 放射線教育

1. 緒言

原子力や放射線に関わる権威(authority)の構築を旨として、福島県全域の子供を対象に実施されている甲状腺検査に関して参加型対話の場である『白熱教室2016』を2016年12月に東京で創出した。その際の参加中高生の発意を受けて、対話の深化を目指すべく『白熱教室2017』いわきダイアログ、を磐城高校で実施した。

2. 課題、方法論、成果

2-1. 課題一目標と目的

Socio-Scientific Issue (SSI)の4指標(科学的知識を待った市民の養成、社会的責任の内省的な育成、弛まぬ思索と論理的議論、批判的思考の発揮)のもとに、対話力を高め協働の萌芽が生まれることを目標とした。いわきダイアログでは対話を通じて公共性のある論点を見える化し、アドボカシー(公共政策の形成促進)に繋げることを目的とした。

2-2. 場のデザインまたは方法論

『白熱教室2016』^[1,2,3]に準じ、車座対話と自発的ファシリテーションを方法論の要諦とした。女子高校生2名が主なファシリテータとなり、2日にわたって3セッションの対話を行った。

2-3. 成果

2日間の対話により、表1に示す12項目の疑問がまとめられた。この他に、皆で話し合ってみいたいこととして、1) A1, A2を分ける必要性、2) 甲状腺定食~その展開、3) 出前授業の普及方法、4) 受診率低下の防止策、また意見として、i) 世界基準を設けるべき、ii) 甲状腺検査を健康診断に入れるべき、iii) 他地域での実施、iv) 他地域とのデータ比較が挙げられた。なお、2)には協働への萌芽が見られた。

3. 結言

高校生らが対話の中での情報共有と内省的思考に基づいて、知りたいこと(専門知識)、皆で話し合いたいこと、そして意見をまとめた。次はいよいよ専門知識の提供のフェーズに入っていくことになる。

参考文献 [1]~[3] 日本原子力学会 2017春の年会予稿集、2C13~2C15

*Tetsuo Sawada¹, Chieko Nakayama², Natsumi Kimura³ and Atsushi Koori⁴

¹Tokyo Tech., ²Kanagawa Univ. High, ³Tohoku Univ., ⁴Iwaki High School

表1 専門家に聞きたい12項目

